

# QOL

Quality  
Of  
Life

QOL  
サポーター  
新潟

38

2015年9月10日発行  
新潟医療福祉大学広報委員会編集



7月・8月・9月の計4日間にわたり「夏のオープンキャンパス」が開催されました。  
県内外からたくさんの方々にご来場いただき、大盛況のイベントとなりました。

- Index
- 特集「実践力を磨く課外活動」
  - インタビュー「臨床技術学科 第一期生卒業」
  - 卒業生レポート
  - 基礎ゼミ 活動・交流会報告
  - 教員クローズアップ
  - CAMPUS NEWS
  - 第15回伍桃祭(大学祭)のご案内
  - 大学院からのお知らせ



新潟医療福祉大学



# 実践力を磨く課外活動

本学は、病院や福祉施設だけでなく、地域やプロスポーツ団体、一般企業との連携・協力関係を持つ全国でも数少ない大学です。これらの幅広いネットワークを活かし、各学科において数多くの課外活動を実施し、より充実した教育・研究活動を行っています。

社会福祉  
学科

## 新潟水俣病患者支援に向けた取り組み

本学では、平成22年度から新潟県の「新潟水俣病関連情報発信事業」に取り組んでいます。福島県にある「新潟県立環境と人間のふれあい館(新潟水俣病資料館)」や新潟水俣病患者団体、熊本県水俣市「ほっとはうす」などの協力により、新潟水俣病患者様との交流プログラムや熊本県水俣市における現地学習プログラムを行っています。学生たちは、患者様から裁判をしていた当時の思いや日々の生きがい・楽しみについて、真剣に、時には楽しく話を伺っています。患者様と実際に交流することで、新潟水俣病について正しい知識・理解を得ると共に、患者様をひとりの人間として見つめる視点がいかに大切か、そして患者様と共に生きる地域社会づくりに自らが今、あるいは将来どのように貢献できるかについて考える機会としています。

また、平成24年度からは、新潟市や阿賀野市で毎年年間6回程度、新潟水俣病患者様に対する健康教室を実施しています。この健康教室は、一口講話や自宅でできる体操、軽く体を動かすレクリエーションを行って、普段の生活の中で介護予防につながるアドバイスを行うことと、学生が患者様にマッサージや足浴を行いながらコミュニケーションを図り、くつろぐ場を提供することを目的としています。特に足浴は好評で、ゆっくりと身体を温めることにより、全身の血行が良くなり、自律神経のバランスが整うなどの効果があります。また、患者様が最も楽しみにしているのは、足浴をしている間に行う学生との会話で



熊本県水俣市における現地学習

す。そこでは、普段どのように暮らしているか、日々どのようなことに困っているかなどのお話が出てきます。学生からは、「辛かった当時の話や最近の嬉しかった話など、様々な話を聞かせていただきました。私たち学生にとっては、楽しい時間であり、貴重な話を聞ける勉強になる場でもあり、参加して下さった患者様には感謝の気持ちでいっぱいです。」などの声が聞かれます。

これらの活動を踏まえ、新潟水俣病の症状の悪化や高齢化に伴い、通院する際に付き添いが必要な患者様に対して支援を行うことを目的に、学生による通院ボランティアを開始することにしました。新潟水俣病患者様との交流プログラムや健康教室に参加した学生など、患者支援の知識や経験を持つ学生が支援に当たります。今後、患者様と本学の学生が交流する姿が、本学周辺地域の日常風景となるよう、取り組みを進めてまいります。



新潟水俣病患者様との交流プログラム



健康教室の様子

### Topic

全国トップクラスの就職実績!

大学全体の就職内定率

99.1%

(平成27年5月25日現在)

様々な課外活動を通して身につけた実践力は、あらゆる現場から高く評価され、第1期卒業以来、毎年ほぼ100%の就職率を達成しています。

★『週刊東洋経済2015.5.27臨時増刊』(東洋経済新報社)

本当に強い大学2015 3年間就職率ランキング 社会・社会福祉系で【全国第1位】を達成!



皆さんは、日頃、お昼ご飯は手作り派ですか?それとも、購入派ですか?本学の学生は、学生食堂で食べたり、コンビニで購入したり、家からお弁当を持参したりと形態は様々ですが、その内容が健康や心の満足度に影響することを健康栄養学科の学生は学んでいます。

健康で良好な食生活を実現するためには、個人の行動も大切ですが、それだけではなく、それを支援する環境づくり等の取り組みがより一層求められます。

健康栄養学科では、地域の健康な食環境を目指し、企業と連携してヘルシーメニューの開発に取り組んでいますが、これは学生として机上で学んだことを実際の地域社会で展開することで、お客様の反応を身をもって体験し、これから目指す専門職としての経験を積むことを目的としています。

【活動内容・活動報告】

この活動は平成24年から始まりました。株式会社キタカタ様が新潟市に店舗展開している「越後茶屋」3店舗、アルビレックスランニングクラブ、新潟医療福祉大学健康栄養学科の3者がそれぞれの目的を共有し、毎年、春と秋にメニューを提供してきました。

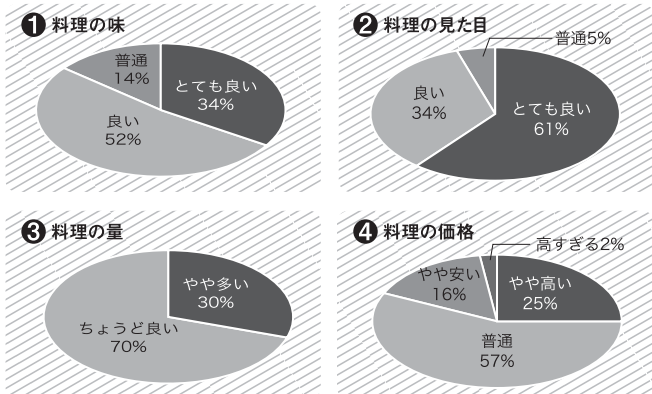
テーマはその年により異なり、お客様のご要望に添うよう考えます。これまでは「1食で1日分の野菜量がとれるメニュー」、「地元の農家とコラボした米や野菜を提供するメニュー」、「**健康御膳**／彩り野菜の肉巻きセいろ御膳膳を意識した身体に優しいメニュー」をテーマとし、開発を行いました。学生は、利用する人の年代を考慮し、嗜好や栄養バランスを整え、2種類のメニューを完成させます。プロの調理師さんと調理実習を行うことで、手さばきの美しさを間近で見ることができたり、調味や盛り付け方など、商品となるまでの現実の厳しさも学んだりすることができます。失敗したらお店に迷惑がかかりますのでみんな真剣です。商品として出来上がるまでには、多くの時間や人の手がかかっていることも学んでいきます。

メニュー提供後は、お客様のアンケートの集計を行い、どのように受け取ってもらえたかを実感して反省の材料とします(グラフ参照)。これらの課外活動の経験を活かし、将来、管理栄養士として、おいしさと健康の両方で食を担えるプロを目指します。



健康御膳／彩り野菜の肉巻きセいろ御膳膳

■ 『越後茶屋』メニュー開発 第5弾「健康御膳」のお客様による評価



N=44人

視機能科学科では、1期生である2年生が学外における様々な課外活動に自主的に参加し、2期生も巻き込んでの大きな支援の輪が出来ています。

【活動内容・活動報告】

■ 子どもたちの眼の健康支援

視機能科学科では、2年生の有志が子どもたちに眼を大切にしてもらいたいと考え、眼の健康に関する紙芝居を作成しています。

まずは、昨年10月10日の「眼の愛護デー」に、新潟市北区の保育園で紙芝居を披露し好評を得ました。①汚い手で眼をこすらない、②食べ物の好き嫌いをしない、③テレビやゲームは休憩をとりながら行う、といった子どもたちが今すぐ実践できる内容になっています。その後、多くの保育園からお声掛けをいただき、20施設以上の保育園を訪問し



紙芝居の披露

紙芝居の披露  
この活動は1年生にも拡がり、1・2年生混成の紙芝居チーム「劇団視機能」が結成されました。今日、ゲーム機やタブレット型コンピュータの普及などにより、子どもの視的環境は大きく変化し、子どもの眼の健康管理へのニーズが高まっています。これからも学生の「子どもたちの視機能を守る」活動を大事にしていきたいと思います。

■ ユニバーサルスポーツの支援

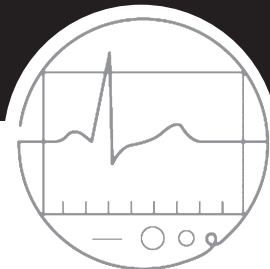
昨年4月の開学当初より、視機能科学科では、視覚障害を理解する目的で視覚障害者の方々とふれあい活動を行っています。定期的な活動として、視覚に障害を持つ方も晴眼者もルールを工夫することで一緒に楽しめるユニバーサルスポーツに参加しています。これらのスポーツは、聴覚を頼りにプレイするサウンドテニスやサウンドテーブルテニスです。はじめはコート作りや球出しといった支援が主でしたが、今ではアイマスクをつけて一緒にプレイを楽しめるまでになりました。この活動にも多くの学生が参加し、QOLサポーターへと着実に近づいています。

このような地域に眼を向けた支援活動は、医療職に必要とされるコミュニケーションスキルの向上、そして視機能科学科の目指す3つの眼(優しい眼・温かい眼・鋭い眼)の育成のために実践力を磨く絶好の活動となっています。



サウンドテーブルテニスをしている様子

# 臨床技術学科 第一期生卒業!



日本で初となる、臨床工学技士と臨床検査技師の2つの国家試験受験資格を学生全員で同時取得を目指すカリキュラムを配置し、従来にはない新しい医療専門職の育成に挑戦してきた臨床技術学科。平成27年3月、臨床技術学科では81名の第一期生が卒業し、多くの学生がダブルライセンス取得者として医療現場への第一歩を踏み出しました。

そこで、本学科でダブルライセンスを取得する意義や、今後の展望について、臨床技術学科 学科長 追手巍先生にお話を伺いました。

## Interview

### 社会要請度の高い臨床技術者の育成を目指して



臨床技術学科  
学科長/教授 追手 巍  
学位:医学博士/新潟大学(1979年)

#### 臨床工学技士と臨床検査技師の ダブルライセンス取得の意義とは?

臨床技術学科では、臨床工学技士と臨床検査技師の両国家資格取得者を「臨床技術者」と呼んでいます。この臨床技術者は、臨床工学、臨床検査の両領域の知識・技能を習得することにより、一つの領域にとらわれることなく、広くそして深く医療に関わることができる潜在能力を持っています。そのため、一般的な医療現場だけでなく、海外での医療協力活動や、質の高い高度先端医療を担う最前線での活動など、期待できる活躍領域も広がります。また、日々進歩する治療方法、医療技術の開発を支える研究分野、そして将来の臨床工学技士、臨床検査技師そしてダブルライセンス取得者を育てる教育分野でも、豊富な知識・技能を有する「臨床技術者」は、中心的な役割を演じることとなります。このようにダブルライセンス取得者は社会からの要請度の高い存在といえるでしょう。



#### ダブルライセンスを取得した学生に どのような活躍を期待しますか?

本学科では初めての卒業生を今春世に送り出し、日本では新卒で初めてのダブルライセンス同時取得者が本学科から誕生したことになります。卒業生らは、前述の医療現場、教育現場で活躍できる潜在能力を持っており、それを実際に発揮し、就業現場で実績を挙げて行くこと

を期待しています。

また、欧米では医師の業務を補助する国家資格として「フィジシャン・アシスタント」という、医師の監督下で医師が行う医療行為の8割方をカバーできる資格があります。この資格にダブルライセンス取得者は非常に近い位置にあり、資格保有者は日本の深刻な医師不足解消に大きな力を発揮すると期待されています。将来、日本に「フィジシャン・アシスタント」制度が導入された暁には、ダブルライセンス取得者は積極的に挑戦してもらいたいです。このように発展性のあるダブルライセンス取得者ではありますが、日進月歩の医学・医療の進歩に遅れないためには、まさしく日々の勉強が必要となってきます。“日々、新面目あるべし!”(会津八一、「学規」より)。

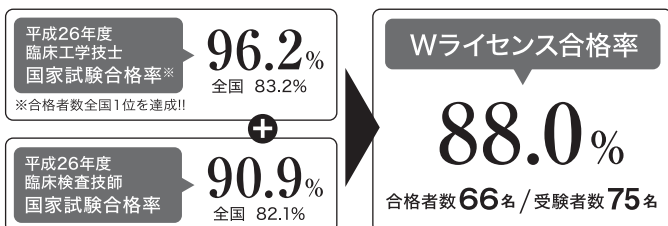
#### 卒業生からのメッセージ



新潟大学地域医療教育センター  
魚沼基幹病院  
【臨床検査技師/臨床工学技士】  
大野 仁子

進路を決定する際、臨床検査と臨床工学のどちらの分野で働くか迷っていました。4年次に両分野の病院実習で2つの職種の違いを肌で感じ、患者様の検査データや病態・症状を踏まえた上で医師に正しいデータを提供する臨床検査技師の方が自分に合っていると思い、臨床検査分野で働くことに決めました。両分野の実習も経験した上で、職業を選択できることは、本学科の魅力の一つだと思います。今後、両方の知識や技術を併せ持った臨床技術者として地域医療に貢献していきたいです。

#### 国家試験実績



日本初のダブルライセンスの合格率もそれぞれの国家試験の全国平均を上回るという快挙を達成しました。

#### 就職実績



就職希望者80名に対し、臨床工学分野で284件、臨床検査分野で366件もの求人が寄せられ、またダブルライセンス取得を採用条件として本学限定で求人希望された医療機関もあるなど、本学への注目の高さがうかがえる結果となりました。今後、本学の卒業生の活躍により、医療現場におけるダブルライセンス取得者へのニーズがますます高まることが期待されます。



卒業生  
レポート  
FileNo  
**01**

## 障害のある方でも 地域で生活できるように 支援していきたい



一般財団法人  
竹田健康財団 竹田総合病院  
【言語聴覚士】  
**尾形 哲也**さん  
福島県 福島西高校 出身  
言語聴覚学科  
平成18年3月卒業

### ➡ 現在の仕事の内容について教えてください

当院は、福島県会津若松市にある総合病院で、小児の発達障害から成人の失語症、高次脳機能障害、構音障害を対象に幅広くリハビリを行っています。

私は以前、児童発達支援、放課後等デイサービスを含む多機能型事業所で業務に携わる機会を持ち、地域の子どもたちの支援に当たってきました。その経験を活かし、現在は当院で、主に小児の外来を担当しています。医療の立場から子どもたちへのリハビリを行い、子どもたちが障害を持っていても保育所や学校、家などでその子なりの自立した生活ができるよう、ご家族や関係機関の方々と一緒に考えていきたいと思っています。

## Alumni Report



### ➡ 本学での学びは、現在の仕事にどのように活かされていますか？

本学で印象に残っているのは実習での学びです。大学で勉強してきた知識を実際の現場で活かすことができたときはとても感動しました。また、担当した一人の患者様を通して、未熟ながら評価、訓練を行い、実習最終日に「ありがとう」という言葉をいただいたことも記憶に残っています。実習で体験したことが、現在の仕事に対する想いの原点となっています。

### ➡ これから言語聴覚士を目指す高校生や在学生へメッセージをお願いします。

言語聴覚士は、患者様や利用者様、子どもたちとその周りの人々とのコミュニケーションを繋ぐ仕事です。コミュニケーションは、私たちが生きていく中でとても大切なものです。私は、患者様や利用者様の想いを受け取り、その人を取りまく人々の懸け橋となるように日々努めています。“伝わった”“伝えられた”時の喜びを味わうことはとても素晴らしいことだと思います。ぜひ私たちと一緒に言語聴覚士として頑張ってください。

卒業生  
レポート  
FileNo  
**02**

## 質の高い 医療を目指して



新潟市民病院  
【診療情報管理士】  
**東都 恵介**さん  
新潟県 新発田商業高校 出身  
医療情報管理学科  
平成27年3月卒業

### ➡ 現在の仕事の内容について教えてください

私は現在、診療情報管理士として、患者様のカルテの内容を確認して病名や手術名を正しく入力しコーディング(分類)をする業務や、医師がカルテに記入した内容が正しいか、必要な情報は揃っているかなどを確認するカルテの監査業務などを行っています。

患者様の個人情報であるカルテを取り扱うことには大きな責任を感じますが、カルテから新たな情報を生み出し、病院経営や質の高い医療に貢献できる点に大きなやりがいを感じています。

今後は、診療情報管理士としての仕事をさらに覚えて、1日でも早くチーム医療の一員として貢献できるよう頑張りたいです。また、日々勉強する気持ちを忘れずに常に最新の知識を身に付けて仕事に臨みたいですね。

## Alumni Report



### ➡ なぜ診療情報管理士を目指しましたか？

病院は病気を治すことだけでなく、より良い医療を提供し続けるために健全な病院経営を行うことや、患者様に信頼してもらえる病院であるために医療の質を向上させることも大切だと思っています。そこで、大学時代に学んだ統計業務や情報管理を通して、病院経営のサポートができる診療情報管理士を目指そうと思いました。

### ➡ 高校生や在学生へメッセージをお願いします。

本学では、他学科と一緒に同じ講義を受けたり、複数学科混成のグループでチーム医療を学んだり、それぞれの専門職の立場から意見交換や討論をしたりする機会が多くあるため、他の職種への理解が深まりました。これらの経験は、将来、医療現場に出たときに、とても役立つと思います。

本学には、多くの学科があり様々な専門職を目指すことができます。皆さんもオープンキャンパスで、できるだけ多く学科を見たり先輩方に話を聞いたりして後悔のない進路選択をしてください！

# 基礎ゼミ



基礎ゼミは、1年生の全学生を対象に行われる少人数制のゼミです。学生は7～8名程度のグループに分かれ、各グループを教員1名が担当します。ゼミでは、健康で充実した大学生活を送るための基本的な能力を育むことを目的に、大学での学習方法や心構えなどを指導します。またディスカッションを数多く取り入れ、友人づくりやコミュニケーションの場としても活用されます。

## 01 基礎ゼミでの学び

理学療法学科 1年 鈴木 莉菜子



基礎ゼミでの交流会では、先輩の学生生活の体験談を聞く機会があり、そこで私は学生生活で気を付ける点や、頑張るべき点などを学びました。具体的には、大学では自分の目標に向かって主体的に学習しなければならないこと、また今学習していることが4年後の国家試験に繋がっていることなど、先輩方のお話しを通じて学ぶことができました。

また、交流会の中で先輩方は私たちにとても優しく接してくれました。そのような温かみも将来、理学療法士になった時にとっても重要になってくるのではないかと感じました。

今、この環境で学ぶことができること、そして沢山の友達や先生方などに関われることに感謝しながら、基礎ゼミで感じたことを活かし、自分の目標に向かって頑張ります。

## 02 大学生活に慣れるきっかけ

作業療法学科 1年 渡辺 敦也



私達のゼミでは、大学内の食事施設や、大学生の昼食の内容を調べ、オープンキャンパスの際に発表するという活動を行いました。少人数で行う基礎ゼミでは、課題を遂行するにあたり、グループ内で話し合いをする機会が多くあり、議論する力が身についたと思います。また、他のゼミ員や担当の先生とは同じ課題に取り組む中で、自然と親しくなることができました。

さらに大学生活にも慣れた7月に、教員と学生が交流する会が開催され、今年にはドッジボールを行いました。学生同士の交流はもちろん、先生とも交流できるので、とても充実した時間を過ごせました。

入学当初は、戸惑うことも多く不安でしたが、基礎ゼミは、大学生活に慣れる足掛かりとなり、非常に重要で楽しい時間です。基礎ゼミで学んだことを活かし、将来の夢に向かって頑張っていきたいです。



01 理学療法学科  
楽しいゼミ活動!



02 作業療法学科  
みんなで楽しくグループ活動!



### 03 基礎ゼミを通して分かったこと

言語聴覚学科 1年 橋詰 佳苗



言語聴覚学科の基礎ゼミでは、各ゼミでテーマを決め、オープンキャンパスで掲示する資料を作成しています。私たちのゼミでは、「言語聴覚学科の学生の日常を紹介する」というテーマで作成を進めています。1～3年生にアンケートを配布し、回答をまとめるうちに、本学科の学生がどのような学生生活を送っているのが分かってきました。勉強とアルバイトを両立している人、

休日の時間を趣味に当てている人など、専門職を目指して忙しい中、時間を有効に使っている学生が多いということが印象に残りました。また、普段先輩方に話を伺う機会が少ないので、貴重な経験となりました。

学年が上がるにつれて講義や実習が忙しくなっていきますが、メリハリをつけた生活を送ることで、私も勉強とサークル活動を両立させたいと思います。そして、充実した4年間にしていきたいです。

### 04 先輩との交流会で抱いた目標

義肢装具自立支援学科 1年 渡邊 キララ



義肢装具自立支援学科では、1年生と上級生の交流の一環として、基礎ゼミごとに交流会を行います。私たちのゼミは、バーベキューを行いました。

私たち1年生が計画し準備を進めてきた交流会に、先生や先輩方が参加して下さるかとても不安でしたが、大勢の方に参加してもらうことができました。しかし、当日の集合時間10分前ごろになった途端、急に雨が

降り出しました。予想してなかった突然のハプニングで私たちは慌ててしまい、右往左往している中、先輩たちは冷静に状況を把握して、問題を解決していきました。そのおかげで、土砂降りの中でも無事に会を始めることが出来ました。この会での先輩方の対応をみて、素直に素敵だなと思いました。私も、先輩のように常に冷静で、広い心を持った人になろうと決意しました。

### 05 基礎ゼミを通して得られたもの

臨床技術学科 1年 佐藤 瞳



私たち臨床技術学科の基礎ゼミでは、全ゼミ対抗ソフトバレーボール大会やバーベキューのほか、各ゼミで実施計画を立て活動しています。入学した直後に行ったソフトボール大会では、試合を重ねる度に声も掛け合えるようになり、優勝することができました。その後の活動では、先生特製の本格カレーをご馳走になったり、海に行ったり、他のゼミと合同音楽会を開催したりなど、非常に充実

した時間を過ごすことができました。

活動を通じて知らず知らずのうちに医療従事者としてとても大切な「人と関わる」という点や学生生活の基礎について学ぶことができたと思います。基礎ゼミで得たことを活かし、今後も優れたQOLサポーターを目指し、有意義な学生生活を送っていきたいと思います。



03 言語聴覚学科  
基礎ゼミメンバーです！



04 義肢装具自立支援学科  
先輩とタテの繋がりを築くBBQ☆



05 臨床技術学科  
他のゼミとの合同音楽会♪

## 06 基礎ゼミのオイシイ?実験～目と色の関係の研究～

視機能科学科 1年 林 真実



私たちのゼミでは、「目と色の関係」を調査しました。このテーマを選んだ理由は、色が私たちにどのような影響を与えているのか疑問に思ったからです。

この調査を通じて、色にはそれぞれ意味があり、様々な場面で色の力が使われているということを知りました。そこで私たちは、色が違うことで食欲や味覚にどのような影響を与えるのかを調べるために、着色料でホット

ケーキに色をつけて、食べてみました。

その結果、赤色や緑色のホットケーキは見た目の印象が悪く食欲がわかず、おいしいと感じませんでした。ピンク色はいちごのような印象でおいしく感じました。味付けは一緒なのに、こんなにも感じ方が違うのかと驚きました。

今回の調査で、視覚が私たちに与える影響の大きさを改めて実感することができました。また、みんなで1つのテーマを決めて活動を行ったことで、親睦を深めることができて良かったです。

## 07 料理を作る側と食べる側の気持ち

健康栄養学科 1年 宮時 紗良



健康栄養学科では、学科交流会として「お弁当の日」を行いました。この日は全員が、主食・主菜・副菜の中からどれかを持ち寄り、バイキング形式で料理を食べました。この日のためにどんな料理を作るのか一人ひとりが考えました。当日は気合いが入った料理が多く、どれも美味しかったです。特に先生方の料理はクオリティーが高く人気でした。この交流会では、これまで話さなかった人とも料理を通じて話

ことができました。また、自分の料理を食べてもらい、他の人の料理を食べることで、作る人と食べる人の間に信頼関係を築くことができたように思います。

私たちは皆、管理栄養士を目指しています。1年生で管理栄養士の勉強を始めたばかりですが、「お弁当の日」を通して、作る側と食べる側の気持ちを経験することができました。この経験を今後役に立て、食べる人の気持ちを考えられる管理栄養士になりたいと思います。

## 08 友達の輪に入るジャンプ

健康スポーツ学科 1年 菊地 健太



基礎ゼミは、大学生活を送るための基礎的な能力を育むことを目的とした授業です。健康スポーツ学科では、基礎ゼミ対抗大縄跳び大会という本学科らしい交流イベントがありました。当日はあいにくの雨で体育館の中は湿気と熱気でむしむしとしていましたが、みんなが交流を楽しみ有意義な大縄跳び大会となりました。

15回の基礎ゼミの中で個性豊かなメンバーと出逢い、そし

て、4年間それぞれの夢のために協力し合える大切な仲間ができました。2年生では連携基礎ゼミ、3年生では専門分野別のゼミへ入りますが、この基礎ゼミで感じたことや身に付けたコミュニケーション力を活かし、有意義な学生生活を過ごしていきたいです。



06 視機能科学科

実験のためにホットケーキを焼きます!



07 健康栄養学科

お弁当の日★楽しく歓談



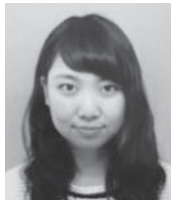
08 健康スポーツ学科

健康スポーツ学科全員集合!



09 看護×遊びはどう繋がっているのだろう？

看護学科 1年 坂田 詩歩



私たちのゼミでは、「看護と遊びにはどのような関係があるのか」をテーマに、それぞれが調査したい内容を設定し、レポートにまとめて発表しました。調べた内容に自分なりの考えを加えて発表し、ゼミのメンバーや先生方と意見交換しながら調査内容を深めていきました。

最初はゼミでの活動も緊張することがありましたが、毎回ゼミの時間の始めにはアイスブレイクをして、お互いを知ることがで

き、ゼミをきっかけに学生生活に馴染むことができたと思います。

また、ただレポートのテーマを調べるだけではなく、レポートとはどのように書くべきものなのか、話し合いとはどのように進めていくものなのかなど、私はこのゼミで学んだことがたくさんあります。ゼミで学んだことは、これからの学生生活や将来仕事に就いたときにも役に立つことばかりです。私はこのゼミのメンバーで良かったと心の底から思いました。

10 福祉かるたづくりを通じて

社会福祉学科 1年 阪詰 大地



私たちの基礎ゼミでは、福祉に関する話題を川柳と絵札で表現し、そこに解説を加えていく“福祉かるた”というものを作りました。かるたの仮名にあてはめて川柳を考えたり、絵を描いたり、楽しく活動を行うことができました。

また、インターネットや図書館にある福祉の新聞記事などでかるたにする題材を調べていくと福祉分野の幅広さや、最近、話題

になっている福祉に関する出来事などがとても良くわかりました。また、川柳にまとめて表現することにより要点を分かりやすく、しかも遊びを通して学ぶことができるため、とても画期的なものと感じました。福祉に関する理解が深まり、有意義なゼミ活動となりました。

オープンキャンパスでは、この福祉かるたを使ったイベントが行われます。周りとの交流を深めながら、福祉のことについてもっと知る良い機会になればと思います。

11 牛丼チェーン店大手三社の牛丼の比較調査

医療情報管理学科 1年 中林 拓己



私たちの基礎ゼミでは、牛丼チェーン店大手三社の牛丼について比較し、その特徴について調査しました。まず私たちは実際にお店へ行って、牛丼を持ち帰り、学内で重量などを測定し、三社の牛丼の特徴を比較しました。その調査で分かったことを基礎ゼミのメンバー全員で話し合い、パワーポイントにまとめて、基礎ゼミの合同発表会で報告しました。この活動を通じて、“何かを調べる方

法”を学んだだけでなく、基礎ゼミメンバー全員で協力して調査したことにより、メンバー同士が一つにまとめることができました。調査以外でも、ゼミのメンバーや先生方、他のゼミの学生との交流を通して、学科内の絆をさらに深めることができました。

また、基礎ゼミを通して、大学生活に少しずつ慣れていき、みんなと楽しく過ごせました。基礎ゼミで学んだことを忘れず、これからの大学生活に活かしていきたいです。

また、基礎ゼミを通して、大学生活に少しずつ慣れていき、みんなと楽しく過ごせました。基礎ゼミで学んだことを忘れず、これからの大学生活に活かしていきたいです。



09 看護学科  
ゼミの最終日にみんなで食事会をしました！



10 社会福祉学科  
福祉かるた完成～！！



11 医療情報管理学科  
全体発表会での1コマ

# 教員クローズアップ!

～新潟医療福祉大学の教員紹介～

新潟医療福祉大学では、2008年より毎年2回(5月・10月)学生による授業評価の総合評価(授業満足度を図る指標)で高い評価を受けた教員をベストティーチャー・オブザイヤーとして表彰しています。今年度で3回目と最多のベストティーチャーを受賞した義肢装具自立支援学科の阿部薫先生にお話しを伺いました。




**阿部 薫**  
Kaoru Abe  
義肢装具自立支援学科  
教授

担当科目 解剖学、運動学、靴型装具学など  
専門分野 靴医学、靴人間科学、下装具肢、歩行分析

ベストティーチャー過去3回受賞(2008、2011、2014年度)



## 来週、来月、来年は今日よりもっと学生にとってより良い講義ができるように

ヒトが正常な状態から逸脱することを病気といいます。したがって医学教育では徹底的にヒトの正常な状態を学びます。その基礎となる分野の一つに解剖学があります。しかし、ヒトの仕組みの全てを学ぶことは不可能ですので、私は義肢装具自立支援学分野に必要なことに絞って講義をしています。ややもすれば丸暗記になってしまいがちな科目ですが、運動器を中心として名称・形・位置を覚えなければ、その先の専門科目に進むことができません。



解剖学は、私も学生時代に勉強しました。最初はやはり丸暗記でした。しかし、「なぜそのような形態になっているのか」と、人と形の意味を理解しはじめると、途端に面白く感じるようになりました。そして「私だったらこういうふうに教えて欲しい、解剖学の面白さをもっと教えて欲しい」と思っていました。そのため、いま自分が講義するときには、教卓ではなく学生側に座っていると仮定して、自分が受けた授業をやることを目標にしています。これまで100点満点だった講義はありません。しかし、今日よりも来週、来月、来年は、学生にとってより良い講義ができるように振り返り、前進するように心がけています。

## Interview

### ■義肢装具士を目指したきっかけを教えてください。

義肢装具士を目指したのは、たまたまNHKのテレビで取り上げられていて、興味を持ったことがきっかけです。その当時すでに社会人でしたが一念発起し、義肢装具士になったのは28歳の時。その後医療現場の経験を経た後、縁あって靴業界で働くことになり、現在で靴の研究を進めています。

### ■教員生活を続けて、嬉しかった出来事を教えてください。

「困っている人を助けたい。それを一生の仕事にしたい。」と、心に誓った学生がたくさんいることです。その結果、学生たちの努力は国家試験や就職はもちろん、学会で賞を受賞するなど、日頃の学業や研究成果にも表れています。

私たちが取り組んでいる勉強は自分のためであると同時に、将来、支援を必要としている人たちのために勉強するのです。だから60点でOKではなく、100点を目指して勉学に励む本学の学生の姿を誇らしく思います。

### ■教育において大切にしていることや考え方を教えてください。

学生にとって教師は身近な将来像であり、専門家として、ヒトとしてお手本でなければなりません。常に全員に見られていることを意識し、何事も一生懸命やります。そうすれば、何も言わなくても、その姿勢を学生が見るだけで、何か伝わるでしょう。学生にとにかく言うのではなく、「自分が全力疾走」することが私の教育方針です。

### ■今後、本学を目指す学生にメッセージをお願いします。

大学で学んだ学問的な知識や技術は、現場に役立つものばかりではありません。目の前で起こっている事象や現象をきちんと見極め、そのとき必要とされるベストな判断や対処ができる人を「プロ」と呼ぶと思います。ぜひとも、「真のプロフェッショナル」を目指すために、本学で学んで欲しいと思います。そのために私も全力で支援します。

## 研究紹介

## 靴と歩行に関する研究

～好きな靴を楽しく履くために～

私の所属する義肢装具自立支援学科は、義足や装具といった身体に装着して使用する医療器具を作り、患者様へ合わせることを専門とする義肢装具士を養成しています。この技術と知識を応用して、身近な生活用品である靴の研究を行っています。

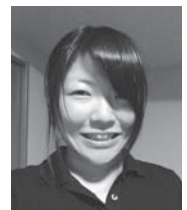
例えば、服はSMLの3サイズで済むこともありますが、靴は5mm単位のサイズになっています。ヒトが普段身に付けるものうちミリ単位の精度が要求されるのは靴だけでしょう。しかし既製品の靴は全てのヒトに合うわけでもなく、さらに右足と左足の形も少しずつ違い、また扁平足や外反母趾のようなトラブルもよくあります。



靴は生活用品であると同時におしゃれアイテムでもあります。足と靴が合わなくて、おしゃれを我慢したり、痛い思いをしていることもあるでしょう。そこで義肢装具の技術を応用して「好きな靴を楽しく履くために」をテーマとして学生たちと楽しく研究活動を行っています。

## Student Voice

～学生から見た先生～



先生の授業では教科書や骨格標本で身体の構造について復習してから、自分や友達の身体を互いに触知し合い確認するなど、座学だけでなく実際に体験しながら学びます。また、ワイヤレスマイクを使用し先生自身が動いて私達に熱心に説明してくれ、とても分かりやすいです。先生のおかげで基礎科目を楽しく学ぶことができました。

義肢装具自立支援学科  
2年  
樺澤 有紗



旬なニュースをお届け!

# CAMPUS NEWS

## 第15回新潟医療福祉学会学術集会のご案内

今年度の学術集会は大会テーマを『在宅医療における多職種連携と次世代教育～食と命の“最良の結び方”を考える～』とし、特別講演やシンポジウムなどのプログラムを用意しています。参加は無料で、事前申込みも必要ありません。多数の方々のご来場をお待ちしております。

日時:2015年10月31日(土)10:00~16:00

会場:新潟医療福祉大学

大会長:斎藤トシ子(新潟医療福祉大学 健康栄養学科 学科長)

### ●特別講演

「在宅医療を支える多職種連携とスタッフ教育  
～当院での呼吸ケア&栄養サポートチーム活動から見えてきたこと～」  
講師:坂井 邦彦(医療法人 新潟臨港保健会新潟臨港病院 内科部長)

### ●シンポジウム

「“喫食者にとっての最適な食事の実現”に向けての多職種連携」  
座長:稲村 雪子(公益社団法人 新潟県栄養士会 会長)



## 本学最大のイベント! 「夏のオープンキャンパス2015」が開催されました!

7月18日(土)、8月8日(土)・9日(日)、9月5日(土)に、「夏のオープンキャンパス2015」が開催されました。各学科の学びをより理解していただくための「学科別説明会」、「学科別体験プログラム」をはじめ、各種相談コーナー、入試に向けた「入試説明会」や「小論文対策講座」など、様々なプログラムが実施されました。来場者には興味のある複数の学科に足を運んでいただき、総合大学ならではの魅力を体験していただくことができました。

また多くの学生スタッフとの交流や、特別プログラムとして開催された「クラブ・サークルによるスペシャルパフォーマンス」等を通じて、新潟医療福祉大学のキャンパスライフをより身近に感じていただくことができました。

本年度の夏のオープンキャンパスはこれですべて終了となりますが、10月以降もオープンキャンパスを実施しますので、機会があればぜひ一度、新潟医療福祉大学まで足をお運びください。

### 【今年度オープンキャンパス日程】

10/11(日) 11/3(火・祝) 12/5(土)

※大学祭同日開催



新潟医療福祉大学のスポーツが熱い!!

## NUHW SPORTS NEWS

## 第28回全日本高校・大学ダンスフェスティバルにて特別賞を受賞!

8月5日～8日、神戸で開催された「全日本高校・大学ダンスフェスティバル」において強化指定クラブのダンス部が主題にふさわしい演出効果の工夫に対して贈られる特別賞を受賞しました。

今回の作品タイトルは「声無き声一瓦礫が語るもの」で、震災によって生じた瓦礫の心情を、大道具を効果的に使って表現した作品です。デリケートなテーマでしたが、大道具等の多様な使い方、最後までこだわり続けた振り付けの一つひとつによって、審査員や観客の心を掴み、特別賞という結果に結びつきました。

今後もダンス部への温かいご声援のほど、宜しくお願いいたします。



## ユニバーシアード競技大会にて、3名のメダリスト誕生!

7月4日～12日、韓国/光州で開催された「第28回 ユニバーシアード競技大会」にて、新潟医療福祉大学 強化指定クラブの【水泳部】・【女子サッカー部】において、各日本代表選手を輩出し、メダルを獲得いたしました。



### 【水泳部】

男女ともに銀メダルを獲得!!

#### ●男子400mリレー

第2泳者:松井 浩亮 [理学療法学科 4年/埼玉県 浦和高校出身]

#### ●女子400mリレー

第3泳者:佐藤 綾 [健康スポーツ学科 3年/長野県 長野東高校出身]

### 【女子サッカー部】

日本女子代表銅メダルを獲得!!

(FW)高橋 美夕紀 [健康スポーツ学科 4年/鹿児島 鳳凰高校出身]

## 関甲新学生野球連盟 秋季リーグ戦より一部昇格!

硬式野球部が、関甲新学生野球連盟の春季二部リーグにて優勝、また、一部入れ替え戦において連勝したため、創部3年目にして、秋季リーグ戦より一部に昇格することができました。

明治神宮大会出場並びに日本一を目指して、更に精進してまいりますので、引き続きご声援を宜しくお願いいたします。



# 学友会

## 第15回伍桃祭(大学祭)案内

10/11日  
12月祝

今年のテーマ

### 「Tutti」

新潟医療福祉大学は今年の春に15期生を迎え、それに合わせて本学の大学祭である伍桃祭も今年で15回目を迎えることができます。保健・医療・福祉・スポーツの多彩な全11学科からなる本学ですが、年を重ねるごとにその連携が深まり、質の高い総合大学として進化しています。

そこで、15回目となる今年の伍桃祭は、「Tutti」というテーマで開催します。「Tutti」という言葉には、イタリア語で「全体合奏・フルオーケストラ」という意味があり、学科・地域・世代と繋がる大学祭にしたいという願いを込めて準備を進めています。当日は学科の枠を超えて、また地域のお子様からお年寄りの方々まで、世代を超えて、ご来場いただいた皆様が楽しめるような様々なプログラムをご用意しています。

今年の伍桃祭では、毎年恒例の『模擬店』や『Mr.&Ms.コンテスト』のほか、クラブ&サークルによるバラエティ豊かなパフォーマンスを行います。迫力のある渾身のパフォーマンスをぜひご覧ください。さらに、スペシャルゲストとして「お笑い芸人」による漫オライヴも開催されます。また、例年にはない体験型のプログラムも多数をご用意していますのでぜひご参加ください！

最後になりますが、伍桃祭は協賛をいただいた企業様やお越しいただく皆様のおかげで成り立っています。今年も多くのご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

10月11日(日)・12日(月・祝)の2日間、新潟医療福祉大学にて、たくさんの方のお越しを心よりお待ちしております。

第15回伍桃祭実行委員長兼学友会副会長 小山 龍一郎

イベント案内

- お笑い芸人による漫オライヴ
- クラブ&サークルによる発表
- 模擬店
- Mr.&Ms.コンテスト
- 北区青年会議所による世界記録に挑戦
- 同窓会企画 子供向けスポーツイベント

このほかにも  
交流イベントが満載です。  
ぜひお越しください。



# 大学院

## 国際協力機構(JICA)× 新潟医療福祉大学大学院連携 青年海外協力隊等プログラム

JICAボランティアに参加しながら修士の学位取得が可能！

青年海外協力隊等JICAボランティアとして活動しながら同時に修士の学位取得を目指す、画期的なプログラムです。派遣国での活動中も教員の指導を受けることができ、任地での活動が大学院の単位の一部として認められます。国際協力現場での実践を通して、国際保健協力に関わる人材としての資質・能力を高めることを目的としています(派遣前、派遣中どちらの入学も可能です)。

平成24年の開設以来、すでに11人の隊員が本プログラムに入学されました。



## 公開セミナーのご案内

### 文献検索セミナー(基礎編) および大学院説明会

12月5日(土) 10:00~

- ◎ 図書館司書による文献検索セミナー
- ◎ 大学院概要説明会・個別相談など

※セミナーの詳細情報については大学院ホームページ(<http://nuhw.ac.jp/grad/>)でご案内しています。  
また、お問い合わせは大学院入試事務室(E-mail: [grnyuusi@nuhw.ac.jp](mailto:grnyuusi@nuhw.ac.jp))までお願いいたします。



## 新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地  
TEL 025-257-4455(代) FAX 025-257-4456  
URL <http://www.nuhw.ac.jp/>  
携帯サイト <http://www.nuhw.ac.jp/m/>  
【入試事務室】TEL 025-257-4459  
E-mail [nyuusi@nuhw.ac.jp](mailto:nyuusi@nuhw.ac.jp)

誌名「QOLサポーター新潟」の由来

世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同様に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっています。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する(サポート)人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様に本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。

